

めぐみイエス・キリスト教会

2020年12月20日(日)第三主日クリスマス礼拝
週報「通算第537号」



2020年標題聖句

第I テサロニケ5章16節~18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時~11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時~(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌75「神の御子は」	p. 102
【交読文】	No.2詩篇第8篇	p. 879
【賛美Ⅱ】	新聖歌78「荒野の果てに」	p. 106
【使徒信条】	【主の祈り】	【先週説教】
【賛美Ⅲ】	新聖歌77「きよしこの夜」	p. 105
【聖書朗読】	ルカの福音書2章1節～21節(2017新約p. 110上段)	
【礼拝説教】	《クリスマスの真実》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

◎本日の聖書箇所【ルカの福音書2章1節～21節】

2:1 その頃、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストゥス(アウグスト)から出た。

2:2 これは、キリニウス(クレニオ)がシリアの総督であったときの、最初の住民登録であった。

2:3 人々はみな登録の為に、それぞれ自分の町に帰って行った。

2:4 ヨセフも、ダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。

2:5 身重になっていた、いいなずけの妻マリアと共に登録する為であった。

2:6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリアは月が満ちて、

2:7 男子の初子を産んだ。そして、その子を布にくるんで飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。

2:8 さて、その地方で、羊飼いたちが野宿をしながら、羊の群れの夜番をしていた。

2:9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。

2:10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。見なさい。私は、この民全体に与えられる、大きな喜びを告げ知らせます。

2:11 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。

2:12 あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりごを見つめます。それが、あなたがたのためのしるしです。」

2:13 すると突然、その御使いと一緒におびただしい数の天の軍勢が現れて、神を賛美した。

2:14 「いと高き所で、栄光が神にあるように。地の上で、平和がみこころにかなう人々にあるように。」

2:15 御使いたちが彼らから離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは話し合った。「さあ、ベツレヘムまで行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見届けて来よう。」

2:16 そして急いで行って、マリアとヨセフと、飼葉桶に寝ているみどりごを捜し当てた。

2:17 それを目にして羊飼いたちは、この幼子について自分たちに告げられたことを知らせた。

2:18 聞いた人たちはみな、羊飼いたちが話したことに驚いた。

2:19 しかしマリアは、これらのことをすべて心に納めて、思いを巡らしていた。

2:20 羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。

2:21 八日が満ちて幼子に割礼を施す日となり、幼子の名はイエスとつけられた。胎内に宿る前に御使いがつけた名である。

●ポイント1.「男の子が生まれた場合」の律法とは？

※レビ記12章1節～4節「産後の婦人のきよめについて」(旧約p.196上段)

●ポイント2.「東方の三博士」が訪問した場所とは？

※マタイの福音書2章1節～11節「聖都エルサレムを経て」(新約p.2上段)

◎先週のメッセージの概要【住民登録】

《メシヤは、預言者ミカによって、主イエスが生まれる700年も前にすでに、どこで生まれるか預言されておりました。『ベツレヘム・エフラテよ。あなたから私の為にイスラエルを治める者が出る。その出現は昔から、永遠の昔から定まっている。』また、預言者イザヤによって、ダビデの子孫から誕生することも、700年前に預言されていたのです。『エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て実を結ぶ。』と。

主イエスは、明らかにダビデの血を受け継いでおられます。マタイは、育ての父ヨセフの系図を、福音書の最初に書き記しました。またルカは、同じく系図を記載しています。しかし、この系図はヨセフではなく、主の母マリヤの系図なのです。しかもさかのぼって書かれています。二つの系図を辿って行くと、ダビデとエッサイの箇所において一致します。ヨセフの系図は、ウリヤの妻(バテ・シェバ)の末の息子ソロモンから別れます。

主イエスは、ダビデの子孫として、母マリアからその血を受け継いだのです。よって、ヨセフの血は受け継いではおりません。しかし、ヨセフがダビデの子孫であるからこそ、住民登録が行なわれた際に、ダビデの子孫の本拠地であるベツレヘムに行かなければならなかったのです。

「住民登録」は皇帝アウグスト(オクタヴィアヌス)によって行われたものです。彼は紀元前63年に生まれ、紀元14年に76歳で死ぬまで、実質的な君主としてローマを支配しました。アウグストゥスはこの勅令によって名前、職業、財産、親族を登録させましたが、その目的は徴税の為でした。

ルカは「キリニウスがシリアの総督であった時の最初の住民登録」と書き記しています。つまり住民登録は、主が生まれた頃に、二回行なわれたのです。一番最初の住民登録は、紀元前8年に勅令が出され、その2年後に実施されました。よって主が生まれる住民登録は、紛れもなく紀元前6年のものです。そして次の人口調査は、紀元6年に行なわれます。神様は預言の成就の為には、ノンクリスチャンさえも用いられるのです。》

◎お知らせ

※次回感謝礼拝は12月27日(日)教会において行ないます。2021年1月3日(日)礼拝と、1月6日(水)聖書勉強会と祈り会は、お休みします。